

東広島植物園では、園内での活動を中心に、温室や圃場で見られる季節の花など、さまざまな情報を紹介しています。
・本施設は、宮島自然植物実験所、総合博物館、CSR(総合博物館公認学生ボランティア)など多方面から支援を受けています。

キャンパスのマツ枯れ伐採



ここ数年、キャンパス内全域でマツ枯れが急速に進行しています。原因は、マツノザイセンチュウによるものと考えられますが、手入れ不足、環境の変化も要因になっている可能性があります。

今年度、東広島市の里山整備事業の支援を受けて、賀茂森林組合の方々に伐採作業を依頼しています。アカマツ林を再生し、生物多様性を守り、地域住民にひろく開放された教育環境や自然とのふれあいの場を維持することを目的として、今後も活動を続けていきます。



マツ枯れ伐採



外周のフルバール沿いは、枯れマツが倒木すると非常に危険なため、優先して伐採しました。

キャンパスのネズミモク 2 種

トウネズミモクは、生態系被害防止外来種リストに指定されています。



ネズミモク

対生で、葉は長さ 4-8cm、全縁。厚くて両面無毛。裏面から透かすと、側脈は見えない。

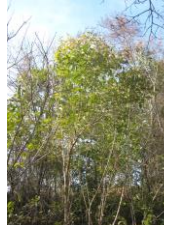


トウネズミモク

葉はネズミモクよりやや大きく、葉柄に近い部分で最も幅広い傾向がある。裏面から透かすと、明瞭に側脈が透けて見える。



12 月頃に熟す果実



自然林に侵入したトウネズミモク

⇒若い個体ではネズミモクとトウネズミモクは、形では区別しにくい場合があります。
⇒トウネズミモクの果実は、冬季にヒヨドリやツグミなどの野鳥が好んで食べます。

【平和大使】No.4 セコイア

世界中から届いた苗木や種子が大切に育てられ、平和を希求する精神とともに引き継がれています。

アメリカ合衆国の海岸に自生し、成長すると樹高 80m、胸高直径 5mにもなるものもある世界有数の大木です。カリフォルニア大学より届けられた 3 本の苗木のうち 1 本が、東千田キャンパスより移植され、東広島キャンパスの植物園に植えられています。

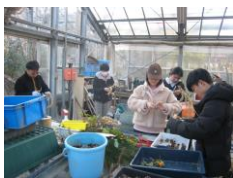


栽培実習・R5 年秋コース



たくあん作りやしめ縄作りも体験しました。

R5 年秋コースを修了しました。今回は、実習時間の変更などが多く、参加された方にはご迷惑をおかけしましたが、みなさん、それぞれのペースで楽しんでいただけたようです。実習も長く続けているため、連作が続き、カブなどは、病気が出ることもありますので、土壌改良が必要になってきています。



生態実験園のため池整備



生態実験園の湿地に侵入しているアメリカザリガニを駆除するため、CSR メンバーが立ち上がりました。毎週木曜日、竹箆を使って駆除を続けていますが、さらに効果をあげるため、池の水を落とすなど、根本からの捕獲を試んでいます。



東広島植物園看板設置

瀬戸内 CN 国際共同研究センターの所属になったことから、この度、東広島植物園の入り口にも看板が設置されました。これまで、植物園の場所がわかりにくいといった問い合わせ等がありましたが、少しは解消されそうです。



園内の植物

アリドオシ *Damnacanthus indicus*

アカネ科

常緑広葉樹の低木。名前の由来は、刺が蟻を刺し通すほど鋭いということ、小さな蟻なら通ることが出来るということなど諸説がある。花期は、4-5 月。別名：一両。



園内の植物

カラタチバナ *Ardisia crispa*

写真は、白実カラタチバナ

サクラソウ科

常緑低木。江戸時代に多くの園芸品種がつくられ、明治時代には 100 種もあったといわれる。花期は 7 月で、11 月頃に実が熟し翌年の 4 月頃まで残る。別名：百両。



【お問い合わせ先】

広島大学 東広島植物園

TEL:082-422-7111 (内線2842)

E-mail : tshioji@hiroshima-u.ac.jp